

# 総合的な学習に期待すること

広島大学附属福山中・高等学校  
学校長 西村 清巳

当校の総合的な学習の総合的計画ができあがりました。学年進行で中学校1年生から高等学校2年生まで、広がりや深みのある計画です。1年間の学習で終わるような簡単なものではありません、切り口も、方法も、内容もたくさん用意されています。それだけに実践は容易ではないと思います。教師の創造性とやる気、子どもの自主性と意欲で大きな果実が可能になります。

こうして文章にすることは簡単です。いつも文章はきれいです。しかし実践する現場は、いつも悪戦苦闘です。総合的な学習をリードし、方向付ける教師の労力は大変なものだと思います。とかく渦中にあるときは、目標も忘れて子どもたちを追いかけるのに熱中してしまうものです。そこで、少し冷めた目で、こんなことも頭の片隅においておいて欲しいと思うことを書いてみます。

## 1. ねらいは世界の平和

常に子どもたちを育てる視座は、社会の実態、明日の世界においてもらいたいと思います。国際理解や情報の利用、コミュニケーション力や体力が、世界の平和、人類の幸せに寄与できる力として身に付くようにしてもらいたいと思います。勿論、当面の学校の教育目標、地域社会の学校に対する期待、保護者の学校に対する期待を忘れるわけにはいきませんが、それらを呑み込んだ上で、世界の平和に寄与できる能力の育成をねらって欲しいと思います。

## 2. 成果の見える学習

教科学習の成果が質の高い総合的な学習を可能にし、その総合的な学習の成果が教科学習の学習意欲にはね返るような実践を見せて欲しいと思います。

教科学習の知識が、日常生活態度や生活習慣として位置づく過程を総合的な学習の成果として見せて欲しいと思います。

総合的な学習が、自分の進路を見つけるきっかけになったり、自主的、積極的な学習態度の育成に寄与することを見せて欲しいと思っています。

成果の見えると言うことは、総合的な学習の評価の問題を含んだやっかいの課題だと思いますが、やはり評価を考

えないでやる授業は、やりっ放しになる危険性があります。評価をしていないと学習活動の反省をすることができません。しかし、総合的な学習のような学習内容の評価をどのようにするかは、大変な問題です。やっかいな問題とは思いますが、評価の仕方も考えながら学習計画を立ててもらいたいと思います。

## 3. 実践力をつける学習

総合的な学習で「生きる力を養う」ということは紛れもないメインの目的ですが、個々の授業からはなかなか見えてこない力だと思います。広島大学附属福山中・高等学校の場合で言えば、中学1年生から高等学校2年生までの総合的な学習の全課程を終えたとき、見えてくるのが「生きる力」であろうと思います。しかし、現実には、何が生きる力かわからない場合が多いと思います。

短絡的に生きる力を考えてみますと、問題の設定と解決する力、結果を表現する力、みんなをまとめる力、社会的なコミュニケーション力、イベントの企画と運営力、難題を解決する体験、難題に取り組む忍耐力などが生きる力のベースになるように思います。そのためには、できるだけ実践的学習、体験的学習が大切になると思います。

## 4. 教科指導と総合的な学習と学校行事の融合

学校生活の三者の学習が十分にその目的と機能を果たすことで、バランスのとれた人間性が培われると思います。それぞれに全力投球をし、それぞれに、それぞれを高める力になることを期待しています。